

大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画

—大野城市歴史文化基本構想—

中間見直し版

概要版



令和6（2024）年3月

大 野 城 市

目 的

大野城市には、国特別史跡「水城跡」^{みずきあと}「大野城跡」^{おおのじょうあと}、国史跡「牛頸須恵器窯跡」^{うしくびすえきかまあと}をはじめとして、県・市指定の文化財および未指定文化財が数多く残されています。これら文化財を地域の資源・宝として、市民に知ってもらい、大野城市の文化財を活かしたまちづくり、人づくり、にぎわいづくり、そしてふるさと意識の醸成につなげる文化財の保存整備活用の推進を図ることを目的とします。

令和5年度は策定から5年目となり、中間見直しを行うこととしていることから、前期計画（平成31年度～令和5年度）で定めた取組の進捗状況と成果を検証し、後期計画の取組の見直しを行うものです。

基本理念

基本理念については、文化財を「地域の宝」と位置づけ、市民や各種団体、行政機関が連携しながら、まちづくりに活かすことを目指すこととしていました。これを実現する取り組みを推進するため、後期計画においても、前期計画と同じく以下のとおりの基本理念・基本方針・目標とします。

連携による「地域の宝」(文化財)を活かしたまちづくり
～全ての市民が文化財を愛するまちの創出～

基本方針

(1) 文化財を知る（調査・研究）

地域に残る石碑や伝統行事、巨樹などこれまで十分に把握できていない文化財を含め調査を行います。



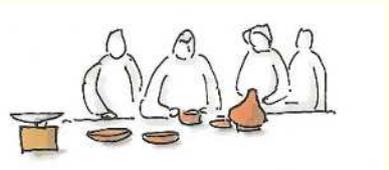
(2) 文化財を守る（保存・整備）

水城跡、大野城跡、牛頸須恵器窯跡、善一田古墳群などの保存・整備事業を進めます。また、市民と連携しながら、各種文化財についても保護・継承し、まちづくりに活かします。



(3) 文化財を活かす（活用）

史跡や保存活用区域を有効に活用し、多くの市民・団体と連携しながら、まちづくりにつなげます。また、各種講座や史跡めぐり、インターネットなどを通じて情報発信を進め、ふるさと意識の醸成を図ります。



計画の目標

(1) 文化財を知る

文化財に関する基礎的研究を行います。また、調査・研究やその成果の公開・活用を市民参画のもと進めるとともに、多くの市民にその成果を伝える取り組みを進めます。

- ① 文化財調査・研究の充実
 - 未指定文化財の調査とデータベース化
 - 埋蔵文化財の把握、調査報告書の刊行、文化財の研究など

(2) 文化財を守る

史跡の保存・整備、文化財・古文書類の収集・保管を適切に行います。地域に密着した文化財の維持・管理や伝統行事の継承などについては、地域住民や市民団体の活動を把握し、支援していく取り組みを進めます。

- ① 文化財の日常管理・観察
 - 文化財の日常管理、防災・減災、劣化対策など
- ② 史跡の保存・整備
 - 史跡の適切な保護、史跡指定と公有化、整備の実施など
- ③ 文化財の収集・保管
 - 考古資料・民俗資料・古文書などの収集・保管
- ④ 地域に密着した文化財の保存・管理・継承
 - 地域に密着した文化財の管理、伝統行事の継承支援など

(3) 文化財を活かす

文化財関連の講座・イベントを継続的に実施し、大野城心のふるさと館を拠点に、市民・団体や他自治体等と相互に情報共有・連携を図りながら、事業を展開します。

- ① 文化財を活用した講座・イベント
 - 史跡めぐりや講座などの実施、地域イベントとの連携、展示の実施など
- ② 市民・関連団体との連携
 - ボランティアガイドの養成・活用、市民団体との連携、古代山城関連事業の推進
- ③ 学校との連携
 - 学校連携事業の推進など
- ④ 他自治体との連携
 - 古代山城サミットの継続・発展、日本遺産「古代日本の「西の都」」の連携、大野城跡と「ワンヘルスの森」の活用、周辺自治体・博物館との連携など
- ⑤ 情報の発信
 - 解説看板の設置、解説資料の作成・配布、インターネットによる情報発信など
- ⑥ 拠点としての大野城心のふるさと館
 - 情報発信の拠点、交流の拠点としての活用

関連文化財群

1 基本的な見直しの考え方

それぞれの文化財の成立背景、役割、人々の生活との関わりなどに着目し、関連性が強い文化財を一つの群（関連文化財群）として捉えると、市内でいくつかのテーマを見出すことができます。これらのテーマが「大野城市らしさ」につながるものです。こうした関連文化財群の捉え方に大きな変化はなく、後期計画の関連文化財群のテーマは以下のとおりです。

2 全体のテーマ

地理的に重要な位置にあたる大野城市は、他の地域と人やモノのつながりを持ち、現在も交通至便にして要衝の都市として成長を続けています。以上のことから、大野城市の歴史文化の全体テーマを次のとおりとします。

「つなぐ つながる 大野の里の物語」

3 関連文化財群の5つのテーマ

特徴的な関連文化財群として、以下の5つのテーマを設定しています。いずれのテーマも山や川をはじめとする豊富な自然資源や、交通の要衝という地理的特性をベースに、歴史的特性が折り重なって育まれてきました。また、長い時間をかけ、先人たちがつないできた歴史文化は、現代の私たちの暮らしにも息づいています。

【テーマ1】 国防の最前線 -水城跡・大野城跡をめぐる物語-

水城跡・大野城跡は、日本最古の国防施設です。1350年の時を越え、地域の人々に愛され、大切に守り継がれています。

【テーマ2】 交流の要 -乙金山麓の古墳群と関連遺跡群-

乙金山の麓には多くの古墳が発見されています。中でも善一田古墳群は、中央政権とのつながりや朝鮮半島との交流を現代に伝える重要な遺跡です。

【テーマ3】 土器づくりの村 -牛頸須恵器窯跡とその周辺-

牛頸地域を中心として、古代の焼き物「須恵器」を作った窯跡が、数多く発見されています。また、この地域には豊かな歴史文化が伝えられています。

【テーマ4】 水の恵みと暮らし -御笠川水系とため池群-

農村地帯であった本市には、溜池や牛頸用水路、また御笠川に関わる石碑などが多く残されています。本市の原風景を語る貴重な歴史・文化遺産といえます。

【テーマ5】 交通の要衝 -日田往還周辺の賑わい-

交通の要衝に位置する本市には、古代から北部九州の幹線道路が通っていました。江戸時代には日田往還が整備され、その賑わいは現在につながっています。

テーマ2 交流の要

— 乙金山麓の古墳群と関連遺跡群 —



善一田古墳群



郡境界標石

テーマ5 交通の要衝

— 日田往還周辺のにぎわい —

テーマ1 国防の最前線

— 水城跡・大野城跡をめぐる物語 —



水城跡・大野城跡

テーマ4 水の恵みと暮らし

— 御笠川水系とため池群 —



御笠川

テーマ3 土器づくりの村

— 牛頭須恵器窯跡とその周辺 —



牛頭須恵器窯跡 (小田浦窯跡群)



保存活用区域と保存活用計画

1 保存活用区域の設定

(1) 区域の位置づけ

大野城市の歴史文化の魅力の発信や文化財の保存・活用を効果的に進め、歴史文化を活かしたまちづくりを先導する区域を「歴史文化保存活用区域」と位置付けます。

(2) 区域の設定

歴史文化保存活用区域とは、「文化財（群）を核として文化的な空間を創出するための計画区域」であり、文化財保護のために規制する範囲とは性格が異なります。区域については明確な区分線は設けません。

(3) 区域外の文化財の取扱い

保存活用区域外に位置する埋蔵文化財やその他の指定・未指定文化財についても、適切に保存活用していくことが求められます。

2. 保存活用計画

中間見直しでは、本計画策定時に定めた共通項目と個別項目について、策定以後に実施した施策の実績を基に、主な課題について整理しました。

(1) 共通項目

項目	方針	主な課題
調査・研究	文化財等の把握	継続的な調査の実施
保存・整備	地震・風水害等への対応、経年劣化等への対応 未指定文化財の保護	被災に備えた文化財の詳細把握 未指定・未登録の文化財の調査 定期的な巡視や地域での見守り
活用	大野城心のふるさと館の有効活用、参加しやすい仕組みづくり 文化財に関する案内・解説サインの充実、情報提供の推進	未指定文化財の解説サイン設置検討 地域の要望に応じた史跡利用の検討 文化財写真のホームページ掲載

(2) 個別項目

保存活用区域	方針	主な課題
区域 A 水城跡周辺区域	継続的に水城跡の公有化、保存整備事業を行うとともに、適切な管理を図りながら、積極的な活用を進めます。	水城跡保存活用計画の策定 水城跡整備計画の検討
区域 B 大野城跡周辺区域	史跡としての価値だけではなく、環境や景観を含め適切に保存・管理し、本市のシンボルとして積極的な活用を図ります。	大野城跡保存活用計画策定の協議 日本遺産事業の推進 「ワンヘルスの森」との連携
区域 C 乙金山周辺区域	善一田古墳群や周辺遺跡の保存を図りながら、積極的な周知と活用を進めます。	分布調査などの継続 環境整備事業の推進
区域 D 牛頸須患器窯跡区域	牛頸須患器窯跡の整備事業を進め、豊かな歴史文化、景観・環境を活かしながら、積極的な周知と活用を図ります。	各種未指定文化財の調査 「(仮称)小田浦史跡公園」の整備



御笠川沿い散策



御笠の森見学



善一田古墳見学①



善一田古墳見学②

区域E
御笠川周辺区域

区域C
乙金山周辺区域



大野城跡



大野城跡からの眺望

区域B
大野城跡周辺区域

区域A
水城跡周辺区域



水城跡見学



小水城跡（小水城のあたり）

区域G
日田往還周辺区域

区域F
上大利周辺ため池区域

区域D
牛頭須恵器窯跡区域



恵比須神社見学



溜井之碑解説看板



三兼池公園



牛頭須恵器窯跡（梅頭窯跡）見学



環境整備サポーター事業

(2)個別項目

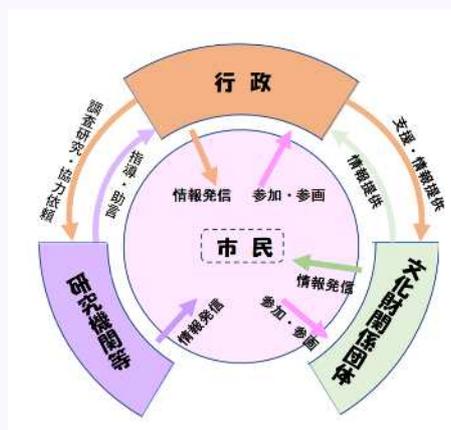
保存活用区域	方針	主な課題
区域 E 御笠川周辺区域	景観を保全し、石碑や伝説などを広く伝えながら、保存・活用を進めます。	御笠の森の適切な保存 石碑類の調査
区域 F 上大利周辺ため池区域	「ため池群」としての景観を保ち、先人たちの努力と工夫を伝える文化財として活用していきます。	牛頸用水路の現状把握
区域 G 日田往還周辺区域	網羅的な調査を継続的に実施するとともに、往時の面影を活かし、まちの魅力として積極的にPRします。	戦争関連遺産の調査・研究 古文書の調査・研究

保存活用を推進するための体制整備の方針

1 保存活用計画を支える各主体の役割、推進体制

保存活用の推進を支える主体として、行政、文化財関係団体、市民、研究機関等があります。

多様な主体が本計画の目的を共有し、相互の連携を推進していく体制を整備するとともに、活動内容を充実させながら、より実効性のある組織にしていきます。



2 推進方策

文化財の活用について、ステージを設定します。ステージ1・2・3へと広げ・深めていくことにより効果的に計画の運用を図ります。

【ステージの設定】

ステージ1（ひろげる）

文化財に関する情報発信を行います。広報活動、史跡・文化財巡り、展示、講座や文化財関連サインの設置などを通じて、文化財の魅力を伝え、文化財に興味を持つ市民の増加を目指します。

ステージ2（育てる）

文化財関係団体等の把握・育成・支援を行い、これらの拡充を図ります。文化財に興味を持つ市民の中から、関連活動への参画を促し、その活動を支援します。

ステージ3（ともに創る）

市民参画・市民主体の文化財関連事業を展開し、「文化財を活かしたまちづくり-全ての市民が文化財を愛するまちの創出-」につなげていきます。

3 実現に向けて

前期では、水城跡・牛頸須恵器窯跡などの関連文化財群や戦争関連遺産の調査を行い、新たな成果を得ることができました。史跡の整備についても、樹木整理や実施設計を進めています。また、大野城心のふるさと館の体制整備が図られ、文化財に対する情報発信を行うステージ1「ひろげる」ことを重点に進め、ステージ2「育てる」としている文化財関連団体等の把握・育成・支援を行いました。

後期では、前期の調査・研究や保存・整備を継続して実施するとともに、新たに生じた課題について整理し、下記の通り後期目標を設定しました。また、文化財の活用については、ステージ2「育てる」を充実しながら、ステージ3「ともに創る」を実現し、「文化財を活かしたまちづくり」に取り組みます。さらに、埋蔵文化財の把握、文化財の日常管理、史跡指定・公有化などについては、全期間を通じて実施していきます。

前期目標	後期目標
調査・研究	調査・研究
①指定・未指定文化財の調査研究	①各種文化財の調査・研究の継続
②調査資料のデータベース整備	②調査資料のデータベース整備
保存・整備	保存・整備
③水城跡の整備の推進	③水城跡の整備の推進
④牛頸須恵器窯跡の整備の推進	④牛頸須恵器窯跡の整備の推進
⑤大野城跡・水城跡に関する保存活用計画策定 に向けての協議・検討	⑤水城跡保存活用計画の策定 ⑥大野城跡保存活用計画にむけての協議・検討
⑥文化財保存活用地域計画の策定	⑦大野城市文化財保存活用地域計画の策定
活用	活用
⑦大野城心のふるさと館の活用	⑧大野城心のふるさと館事業の推進
⑧各種活用事業の推進	⑨未指定・指定文化財の調査研究成果の公開・活用
⑨文化財関係団体の把握・育成・支援	⑩文化財関係団体の把握・育成・支援
⑩文化財サイン計画の策定と整備推進	⑪文化財サイン計画の検討
⑪古代山城関連事業推進協議会の継続と古代山城サミットの充実	⑫古代山城関連事業推進協議会の継続と古代山城サミットの充実
追加目標	⑬日本遺産「古代日本の「西の都」」の活用と連携事業の推進
追加目標	⑭ワンヘルスの森と大野城跡の活用